



**Topminnow**  
from: **U.S.A.**



**Bluegill**  
from: **U.S.A.**

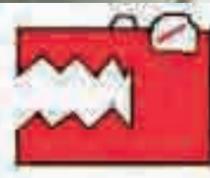


**Tilapia**  
from: **Africa**

# The Crisis of Yamazakigawa 2010 River!!



**The ladle of American bullfrog**  
from: **U.S.A.**



From March 2010, the water that flows into Yamazakigawa from the resource pond has stopped completely. In this summer, quantity of the water decreased and water temperature rose due to a little rain, which increased specified exotic species spread in Yamasakigawa. They have bad influences particularly on native species.

2010年、今年の山崎川は大変なことになっています。源流の池からの水が3月から完全にストップし、雨の少ない今年夏、水量は減り、水温は上がり、外来種の天国と化しました。この状態が長く続くと在来の生き物たちがいなくなってしまうかもしれません！！！！



# Yamazakigawa Greenmap

## 専門家の視点

カメは長寿であることで有名な生物です。形も滑稽で親しみがもてペットにされるほど扱いも簡単です。このような生物に着目した地域の環境調査はとても有効です。

とくに「山崎川グリーンマップ」が行った調査には、優れている点がふたつあります。ひとつ目は、調査を専門家の指導を受けて行っている点です。カメの住民票をつくるにあたって、カメの体重や甲羅の大きさの計測、個体識別のための標識付けなどを専門家の指導のもとに行っています。カメは寿命が長いので、10年20年後の調査も可能です。将来、調査をした子供たちが成長していく段階でも、継続的に参加できるように初動時からある程度は精度の高い調査を行うことは重要です。この調査では、簡単にできる方法で調査精度を落とさないように行うための工夫がなされています。

ふたつ目は、着眼点です。市民が身近な環境を調査する生物としてカメを選んだことは言うまでもありません。カメの有利な点は長生きであること、継続調査が可能であることです。しかし、一方で環境を長く調査し続けるということでは、調査員が継続するかという問題が残ってしまいます。そこで導入されているのが、住民票づくりです。調査員である子供たちは、自分でつかまえたカメに自由に名前を付けています。そして、それぞれのカメが子供達の分身となって、日々山崎川の環境を監視してくれるという仕組みです。これはちょうど、世界中の子供たちに大人気の「ポケモン」のような架空生物育成ゲームの面白さを内在させた調査法に組み立てられていることとなります。これは、継続的な環境調査のモチベーションを維持する素晴らしい手法です。

調査員とカメがともに身近な環境で暮らしていて、一緒に継続的に調査が進められる仕組みが完成されていて、今後が楽しみな調査になっています。

(財)自然環境研究センター 研究主幹 齊藤秀生